

イエスのことば 第 62 回

わたしは、地上に火を投げ込むために来ました。火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう。(ルカ 12 : 49)

□文脈の確認

1. イエスの公生涯を起承転結の四部構成に分け、背景を理解しながら学ぶ。
 - (1) 起：紀元 26 年秋の受洗から翌年春メシア宣言を経て宣教開始まで (第 1～9 回)
 - (2) 承：メシアとしての権威を現わすも指導者層の拒否を受ける (第 10～33 回)
 - (3) **転**：紀元 29 年春から弟子訓練、秋の仮庵の祭りの後、信者の家々を訪ねて旅
 - (4) 結：紀元 30 年 4 月、エルサレム入城・十字架・復活、復活から 40 日後に昇天
2. 転の部：紀元 29 年春から翌年 4 月 1 日まで
 - (1) 春から秋までの半年、異邦人地域へ 4 回の旅行 (第 34～48 回))
 - (2) 紀元 29 年秋 10 月、仮庵の祭りの前 (第 49 回)
 - (3) 仮庵の祭りにて (第 50～55 回)
 - (4) **仮庵の祭りの後** (第 56～63 回予定)
 - (5) 冬 12 月、宮清めの祭りにて (第 63 回予定)
 - (6) 翌年 4 月 1 日までの約 3 か月の間にて

信者の家々を訪ねて旅
3. 仮庵の祭りの後 (ルカ 10 : 1～13 : 21)
 - ① 七十人の派遣 (10 : 1～24)・・・ユダヤとペレア地方の信者の所在を把握
 - ② ある律法学者との問答「永遠のいのちを得るためには」(10 : 25～37)
 - ③ マルタとマリアという姉妹の家にて (10 : 38～42)
 - ④ 祈りについての教え (11 : 1～13)
 - ⑤ メシア的奇跡：口をきけなくする悪霊の追い出し (11 : 14～36)
 - ⑥ あるパリサイ人の家にて：手を洗う儀式について (11 : 37～54)
 - ⑦ **弟子たちへの 9 つの教え** (12 : 1～13 : 21) 弟子たち：特に、使徒たち

熊本集会
10 月 26 日
4. 弟子たちへの 9 つの教え (後半 4 つは群衆にも、あるいは群衆に語られる)
 - A) パリサイ人の家を出てきてから、弟子たちに。偽善に気をつけよ (ルカ 12 : 1～12)
 - B) 群衆の中からイエスへの要望をきっかけに。食欲に注意せよ (ルカ 12 : 13～34)
 - C) 主の再臨に備えて、目を覚ましていなさい (ルカ 12 : 35～40)
 - D) 忠実なしもべでいなさい (ルカ 12 : 41～48)
 - E) メシアの初臨がイスラエルにもたらす結果 (ルカ 12 : 49～53)
 - F) 群衆にも。旧約聖書の預言により時のしるしを見るなら、イエスがメシアであると分かる (ルカ 12 : 54～59)
 - G) 群衆に。イエスについての考えを変えないなら、災難に遭う＝紀元 70 年のエルサレム陥落に巻き込まれて死ぬ (ルカ 13 : 1～9)

今回

- H) 会堂で（群衆に）。18 年間腰が曲がって全く伸ばすことができない女の人を安息日に治したことを通して、イスラエルが口伝律法とサタンによる束縛から解放される必要について（ルカ 13 : 10～17）
- I) 奥義としての神の国の特徴。外面的には大きく成長して繁栄するかのように見える。しかし、そこには鳥が巣を作り、内面的にはパン種を含む（ルカ 13 : 18～21）

E) メシアの初臨がイスラエルにもたらす結果（ルカ 12 : 49～53）

1. 指導者層がイエスを拒否したことに対する神のさばき（ルカ 12 : 49）

49 節 わたしは、地上に火を投げ込むために来ました。火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう。

- 火・・・紀元 70 年のエルサレム陥落。イスラエルが約束の地から追われ、世界離散へとつながっていく。
- 火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることでしょう・・・この神のさばきは、イスラエル民族にとって大きな災いである。「すでに燃えていたら」とは、その神のさばきがもう終わっていたら、ということ。しかし現実には、これからその辛い出来事に直面しなければならない。

2. その前にイエスが受けるべき苦難がある（ルカ 12 : 50）

50 節 わたしには受けるべきバプテスマがあります。それが成し遂げられるまで、わたしはどれほど苦しむことでしょう。

- わたしが受けるべきバプテスマ・・・十字架の死

3. イスラエルの民の間での分裂（ルカ 12 : 51～53）

51～53 節 あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思っていますか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ分裂です。今から後、一つの家の中で五人が二つに分かれ、三人が二人に、二人が三人に対立するようになります。父は息子に、息子は父に対立し、母は娘に、娘は母に対立し、姑は嫁に、嫁は姑に対立して分かれるようになります。

- 地上に平和をもたらす・・・メシアの王国は地上に平和をもたしますが、それは将来に延期された。メシアの再臨を待たねばならない。
- 分裂・・・イエスをメシアとして認めるかどうかで、イスラエルの民は、それぞれの家庭で分裂が起きる。

F) 群衆にも。旧約聖書の預言により時のしるしを見るなら、イエスがメシアであるとわかる (ルカ 12 : 54~59)

1. 天気を見分けることについて (ルカ 12 : 54~55)

54~55 節 イエスは群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言います。そしてそのとおりになります。また南風が吹くと、『暑くなるぞ』と言います。そしてそのとおりになります。

2. 天気を見分けるように、時代のしるしを見るなら、イエスがメシアであるとわかるはずだ (ルカ 12 : 56~57)

56~57 節 偽善者たちよ。あなたがたは地と空の様子を見分けることを知っていながら、どうして今の時代を見分けようとししないのですか。あなたがたは、何が正しいのか、どうして自分で判断しないのですか。

- 今の時代を見分ける・・・旧約聖書の預言に照らして、今の時代のしるしを見るなら、イエスがメシアであることは明らかである
- 何が正しいのか、どうして自分で判断しないのか・・・旧約聖書の預言を素直に聞いて判断すればイエスがメシアであることは容易にわかるのに、イスラエルの人々はユダヤ教パリサイ派や律法学者たちの意見に動かされてしまっている。

3. 手遅れになる前に、神と和解せよ (ルカ 12 : 58~59)

58~59 節 あなたを訴える人と一緒に役人のところに行くときは、途中でその人と和解するように努めなさい。そうでないと、その人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行き、裁判官はあなたを看守に引き渡し、看守はあなたを牢に投げ込みます。あなたに言います。最後の 1 レブタを支払うまで、そこから出ることは決してできません。」

- あなたを訴える人・・・父なる神。イエスを遣わされたお方。
- 和解する・・・イエスをメシアとして認める

G) 群衆に。イエスについての考えを変えないなら、災難に遭う＝紀元 70 年のエルサレム陥落に巻き込まれて死ぬ (ルカ 13 : 1～9)

1. 総督ピラトによる巡礼者殺害事件 (ルカ 13 : 1～3)

1～3 節 ちょうどそのとき、人々が何人かやって来て、ピラトがガリラヤ人たちの血を、ガリラヤ人たちが献げるいけにえに混ぜた、とイエスに報告した。イエスは彼らに言われた。「そのガリラヤ人たちは、そのような災難にあったのだから、ほかのすべてのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったと思いますか。そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。

- ピラト・・・ローマから派遣されているユダヤ総督。そのガリラヤ人たちを強盗団か反乱者の一味と判断して兵を差し向けたのであろう。
- あなたがたも悔い改めないなら・・・イエスを悪霊憑きとして拒否するような考えを改めないなら
- みな同じように滅びます・・・紀元 70 年のエルサレム陥落に巻き込まれて死ぬ。エルサレムの神殿にローマ軍が到達した時は、ちょうど祭壇で動物の犠牲をささげる時間帯。戦いにより、祭壇に多くのイスラエル人の血が流れ込んだ。

2. シロアムの塔の事故 (ルカ 13 : 4～5)

4～5 節 また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも多く、罪の負債があったと思いますか。そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。

- 紀元 70 年のエルサレム陥落に際しては、ローマ軍はエルサレムの城壁下の地盤を掘り、土台石を崩して、城壁全体の崩落を起こした。その際に城壁の上にあった塔には、多くのイスラエル人が立て籠もっていて死んだ。

3. 実を結ばないいちじくの木のとえ話 (ルカ 13 : 6～9)

6～9 節 イエスはこのようなたとえを話された。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。そして、実を探しに来たが、見つからなかった。そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。三年間、このいちじくの木に実を探しに来ているが、見つからない。だから、切り倒してしまいなさい。何のために

土地まで無駄にしているのか。』

番人は答えた。『ご主人様、どうか、今年もう一年そのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥料をやってみます。それで来年、実を結べばよいでしょう。それでもだめなら、切り倒してください。』

- ぶどう園・・・イザヤの預言では、イスラエル民族は「主のぶどう畑」と呼ばれる。
- 実を結ばないいちじくの木・・・あの世代のイスラエル
- 三年間・・・イエスの公生涯が始まって 3 年が経過している
- 今年もう一年そのままに・・・紀元 30 年の十字架から、1 年と言わず、40 年、神はイスラエルにさばきを下すことを待った。40 年を経てもなお、イスラエルは実を結ばなかった。
- 切り倒す・・・エルサレム陥落・神殿崩壊を指す。紀元 70 年に起きた。